

## LODE（ロード）マップの取組み方

- ①準備した簡易立面図の各戸に、凡例に則してシールを貼っていきます。
- ②シールの張りつけが終わったら、地域で指定されている緊急避難場所や公衆電話の場所なども、地図上で示せる範囲で確認します。
- ③住民情報が埋まったら、火事や地震、津波などの災害の発生をシミュレーションします。（発生日時、その日の天候や気温、風向きなど、なるべく細かく想定します。）
- ④想定・設定された被害状況・与件のなかで、迅速かつ安全に避難できる方法をグループごとに話し合います。



### 取組む上で大切な事

**LODE**マップづくりは、住民参加型で進めます。

住民自らが他の住戸の方々を「あの住戸にお住まいの方は高齢者だと思う」、「お隣さんのお子さんは障害をお持ちだと思う」、「〇〇さんのお宅では犬を飼っているようだ」というように、ある程度“推測”をしながら要支援度等の戸別情報を整理していきます。

その際、次のような苦情が寄せられてトラブルが発生し、**LODE**の取り組みに支障がでないとも限りません。

- ・年齢の間違い：「失礼な。私のことを後期高齢者（75歳以上）だと思っているのね。私まだ60歳なのに」
- ・障害状況の間違い：「うちの子は、障害を持っていると思われているのね。障害ではなく、性格なのに」
- ・ペットの秘密：「猫を飼っていることはできるだけ隠していたかった。」

そこで、次のような対応を講じるべきだと思われます。

●ワークショップに際しては、住民同士が、お互いどう思い合っているか（世帯構成や年齢、障害の状況等について）は問わないことを明言する。

●みんなで作成した**LODE**マップは（作成中のものも）、民生委員、自治会役員等に管理・保管をお願いする。